

当報告の内容は著者の著作物です。

フィールド言語学・テクニカルワークショップシリーズ

共同利用・共同研究課題「インドネシア諸語の記述研究：その多様性と類似点」

共催

ELAN ワークショップ

開催日時：平成 22 年 7 月 19 日（月曜日）午前 10 時～午後 5 時

開催場所：AA 研 3 階マルチメディア会議室（306 室）

講師：Anthony Juke (La Trobe University, AA 研共同研究員)

ワークショップ概要：

本ワークショップでは、オーストラリア、ラトロブ大学の Anthony Juke 氏を講師に迎え、マルチメディア（動画／音声）データへのアノテーション作成のためのソフトウェア ELAN の使い方を学んだ。本ワークショップは、フィールド言語学・テクニカルワークショップと共同利用・共同研究課題『インドネシア諸語の記述研究：その多様性と類似点』が共同で開催したものであり、受講者はフィールド言語学・テクニカルワークショップへの応募者 5 名、共同研究プロジェクトの共同研究員 5 名、計 10 名であった。プログラムは以下のとおりである。

1. An introduction to ELAN for beginners (10:00—12:00)
2. Exchanging data between Shoe/Toolbox and ELAN (13:30—14:30)
3. Individual practice/consultation time (15:00—17:00)

受講者は、まず ELAN の使い方の概要について知識を得た後、Toolbox（旧名 Shoebox、言語データの管理とテキスト分析のためのソフトウェア）データを ELAN にインポートする方法を学んだ。Toolbox は比較的早くから開発の進んでいたソフトウェアであり、受講者の中にも利用者が多かったが、動画／音声データの読み込みの機能を持っておらず、その点に不満があった。したがって、Toolbox で作成したデータを、マルチメディアとテキストとのリンクを主たる機能とする ELAN で再利用する方法を学んだことは非常に有益であった。また、プログラムの最後の 2 時間は、受講者が ELAN を実際に動かしながら、個別に講師からのアドバイスを受けるという形で進められた。

受講者からの感想：

ワークショップ終了後、受講者から次のような感想が寄せられた。

ワークショップに参加して良かった点

- 自分の研究に応用できる点が良かった。
- まだ整理していない映像・音声資料に手をつける意欲と勇気が湧きました。
- 勉強になりました。大型の研究費をとって、組織的にデータ整形と蓄積をすれば良いのではないかと思いました。
- ELAN の使い方をひとつとおり学ぶことができたこと、分かりやすかったことが良かった。

ワークショップで改善すべき点

- 講師以外に個別の問題、インストール、ソフトの使い方、不具合等を解決する人がおらず、講師の負担が大きい。
- この手のワークショップは参加者のレベルがバラバラだとなかなか難しいと思います。あらかじめニーズを聞いて準備をするのもひとつの方法かと思います。
- 期間を2、3日間にする。1日というのは（個別に対応してもらえる時間が少なく）十分な恩恵を得るには短すぎる。
- PC 用のコンセントの数が不十分だった。

報告書作成：長崎郁（AA 研特任研究員）